

# 今月の技術対策 (水稻編)

留萌農業改良普及センター

TEL : 0164-62-1779 FAX : 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp

畑作・園芸編も  
HPで公開中!

## 1 現在の生育について

表1 8月1日現在の生育 (普及センター調べ)

区分		草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎数 (本/10a)	生育遅速	幼穂 形成期	出穂期	成熟期
成苗ポット ななつぼし	本年	89.3	11.0	524	早5	6/25	7/22	—
	平年	85.9	10.9	510		6/27	7/26	9/10
中苗マット 風の子もち	本年	92.7	10.1	563	早4	6/29	7/29	—
	平年	78.9	10.4	549		7/3	7/31	9/20

7月以降の気温が平年より大幅に高く、8月1日現在の生育は、成苗ポット育苗「ななつぼし」では5日、中苗マット育苗「風の子もち」では4日、早く生育が進んでいます(表1)。  
 今後は登熟を妨げないように適正な水管理を行いましょう。

## 2 登熟期間の水管理について

### (1) 早期落水は収量・品質低下に直結!

玄米は開花・受精後から穂かがみ期(出穂後25日頃)にかけて急速に生長するため、多くの水を必要とします。排水良好田の落水は穂かがみ期以降に実施しましょう。

### (2) 用水を確認しながら入水しましょう!

登熟中盤以降は、水尻を確認し漏水防止を徹底するほか、用水が確保できる時に1筆ごとに確実に入水します。登熟中盤・後半にむけて土壌水分を維持できるようにしましょう。

### (3) 登熟後半も玄米は生長しています!

収穫10日前までは田面に小さなヒビが入り、深さ1cm程度の足跡が付く状態が適切な土壌水分になります。

田面に大きな亀裂(幅1cm程度)が生じると、断根してしまい登熟不良や白未熟粒、胴割粒などの発生を助長します。また、本年は登熟前半の気温が高くなる見込みで、腹白、乳白粒の発生も懸念されます。品質低下を防ぐため、それぞれの水田の排水・乾燥状況に合わせた落水を心がけ、収穫まで適正な土壌水分を維持しましょう。

#### (4) 出穂期からみた成熟期の予測について

出穂期が平年よりも早まっていることから、登熟が順調に進めば成熟期が早まることが予測されます(表2)。コンバイン、乾燥機の点検・整備などを計画的に実施しましょう。

表2 出穂期からみた成熟期の予測

出穂期	7月 20日	7月 22日	7月 24日	7月 26日	7月 27日	7月 28日	7月 30日	8月 1日	8月 3日
苫前町 ・羽幌町	9/2	9/4	9/6	9/8	9/10	9/11	9/14	9/17	9/19
初山別村	9/3	9/5	9/8	9/10	9/11	9/13	9/16	9/19	9/21
遠別町	9/2	9/4	9/6	9/9	9/10	9/11	9/14	9/17	9/19

- ※・成熟期予測：出穂期からの積算気温が950℃に達した日
- ・積算気温「7/31」までは本年値、その後は平年値を使用。
- ・各町村アメダスデータ使用。苫前町は羽幌町アメダスデータ使用。

### 3 病害虫の防除について

#### (1) いもち病

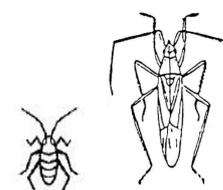
穂いもちの基幹防除後に、天候不順が続く場合や葉いもちの発生が見られる場合は約7日間隔で穂揃い期まで追加防除を実施します。

#### (2) アカヒゲホソミドリカスミカメ

北海道病害虫防除所の情報(8月予報(7月26日))では、カメムシの発生期は「やや早い」、発生量は「並」となっています。

高温で経過すると加害が活発化する恐れがあります。

基幹防除は出穂期と出穂期から7～10日後となります。発生量が例年並の見込みですが、発生予察情報やすくい取り調査結果を参考にして、追加防除を検討しましょう(表3)。



幼虫 成虫  
アカヒゲホソミドリ  
カスミカメ

表3 アカヒゲホソミドリカスミカメ追加防除基準

品種	要防除水準	
	捕虫網20回振り	フェロモントラップ
きらら397 ななつぼし、ゆめぴりか、 風の子もち、きたゆきもち、 きたふくもち、はくちょうもち	2頭	2.2頭/7日 (9.3頭/30日)

※追加散布予定日の2～3日前に確認

- ・すくい取りは、風の穏やかな日中に稲の穂をこするようにして実施
- ・すくい取りにくくなるため高温時は避けて実施

～事故のないよう、無理な作業を控えて適度な休憩、休息を！～